

筒台会報

発行所

神戸市立葺合高等学校筒台会

〒651-0054 神戸市中央区野崎通1-1-1

TEL078-291-0771 (葺合高校事務室) TEL078-271-4000 (筒台会事務局)

ホームページ <http://www.todaikai.net>

編集・印刷

三和印刷株式会社

〒658-0024 神戸市東灘区魚崎浜町27-21

TEL078-431-3981



平成28年6月完成の新校舎予想図

●目次.....	1	●母校トピックス.....	13～
●「新校舎完成を楽しみに… 振り返って」.....	2	●フェニックス賞.....	16
筒台会会長 志水利達		●部活動の主な成績／卒業生進路状況.....	17
●「筒台会東京支部活動報告」.....	2	●会員の皆様へお願い.....	18
筒台会東京支部長 大政直人		●広告.....	22
●「ごあいさつ」.....	3	●この人に聞く.....	29
校長 西尾 勝		●平成25年度 筒台会役員(案).....	30
●「有形と無形と」.....	3	平成25年度 筒台会総会・懇親会次第	
教頭 大西一雅		●会計報告・予算案・会計監査報告・会務報告.....	31
●平成25年度教職員移動.....	3	●平成25年度 筒台会・筒台会東京支部	
●寄稿 筒台会だより.....	4	総会・懇親会のご案内.....	32
●新校舎建設工事状況.....	12		



新校舎完成を楽しみに… 振り返って

筒台会会長
志水利達 (高校16回)

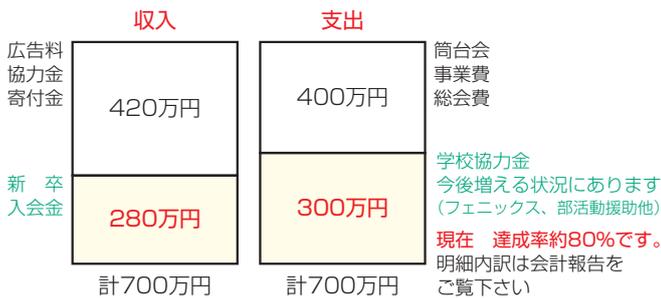
同窓のみなさん、お元気ですか。

母校の建て替え工事は平成28年の完成を目指して順調に進んでいます。古くは神戸高商（現神戸大学）が発祥し、神戸市立第一中学校から葺台高校へ。綿々と受け継がれてきた学びの地で今、新たな歴史の幕開けの槌音が響いています。発展を続ける母校の姿は、筒台会としてもうれしい限りです。

筒台の地で、建て替えに際しての田阪義英前校長、市教育委員会で担当された西尾勝現校長のご尽力と熱意に、改めてお礼を申し上げます。

私が、平成21年6月、松宮功会長の後を受けてから4年の歳月が流れました。皆様に支えていただき、なんとか重責を果たし続けることができました。この間、筒台会の財政基盤の確立に取り組むとともに、諸先輩が築いてこられた母校との絆、相互理解、信頼関係をさらに深めるように努めてきました。

財政基盤の確立は皆様のご支援とご協力のおかげで、道筋が見えてきました。下段のグラフをご参照下さい。



筒台会は2万人を超える会員の方がいます。

1000人の方から年間3千円（会報協力金2千円＋運営協力金一口千円）のご支援とご協力がいただければ広告料収入を含めて、目標の第一歩は到達可能となります。

新会長のもと、筒台会の運営を強化、充実させ、母校の発展飛躍を支え、同窓の絆の輪（和）を広げる「信頼の筒台会」となるために、協力金へのさらなる支援をお願いします。

6月に開催してきた「ホームカミングデー（母校を訪問しよう）」は、母校との絆を強める契機になったものと思っています。相互理解を深めるものとしては、葺台高校の前身である神戸市立第一中学校の同窓生とのつながりをさらに強め、70余年の歴史と伝統を伝える証の一つとして一中の校旗を作成しました。大きな課題となっていた会員皆様の名簿の整理も「名簿委員会」を発足させ整備に着手し、ホームページ (<http://www.todaikai.net>) にも、住所などの変更を受け付ける欄を設けました。卒業生一人一人が筒台会の会員であることを、より身近に感じていただければ幸いです。

私と榊原副会長（16回生）は当時の現職でありました神田・竹内両先生の熱意あるバックアップのお陰で18回生古川新体制にバトンを渡すことができます。古川新会長は、私が高校3年生の時の1年生でございます。

3年生と1年生、この差は一生追いつく事はできません。しかし、この年代の後輩に対して一方ならぬ愛情を持ち続けております。何卒より一層のご協力をお願い致します。

4年間ありがとうございました。心からお礼申し上げます。



筒台会東京支部活動報告

筒台会東京支部 支部長
大政直人 (高校24回)

こんにちは！

筒台会のみなさま、昨年の5月から支部長になりました大政と申します。渡部前支部長から引き継いで1年がたちました。前執行部の気配りあふれるアットホームな雰囲気を引き継ぎつつ、新しい試みを企画してより多くのみなさまに気楽に参加していただけるような東京支部にしたいと思っております。今年度中に行いたい新企画としましては、

①木村弓ミニ・コンサート（「千と千尋の神隠し」を歌っているシンガーソングライターです。）

②「震災に対する心構えと対応（仮題）」（阪神淡路大震災を体験された新聞記者の方に講演して頂く予定です。）

などを考えております。ぜひ実現に向けて努力したいと思います。

また昨年、東京支部HPに「フェニックス・カフェ」という学生支援のコーナーをアップしました。これは学生に対して就職などの相談支援を目的としております。

現在、登録している会員は7名だけですが、サントリー OB、第一生命取締役、パリ在住フランス語学校校長などが名前を連ねています。随時学生からの質問を受け付け、それに対して返答する、というもので、普段なかなか聞くことの出来ない情報を手に入れる事が出来るかもしれません。無料ですのでどうぞ遠慮無くご利用下さい。

では今後ともみなさまのご支援をよろしく申し上げます。



平成24年5月26日（土）東京支部総会・懇親会



ごあいさつ

校長
西尾 勝



有形と無形と

教頭
大西 一雅

若葉の緑が清々しくみえる頃となりました。筒台会の皆様には平素より本校教育活動へのご支援、ご協力をいただいていますことに厚く御礼申し上げます。

24年度は国際科、普通科合わせて276名が巣立ち、筒台会に入会しました。24年度の卒業生は平成6年、平成7年生まれです。平成7年1月17日あの一瞬にして多くの尊い命を奪った阪神淡路大震災が起きたのは、生まれて1歳にも満たないか、もしくはまだお母さんのお腹の中にいた時のことでした。あれから18年。被災された方々が、神戸が、復旧復興に向けた18年。失望の中で希望を見いだしながら歩んだ18年。

地震がもたらした凄惨な被害を前に、人の無力さに失望し、瓦礫と化した街から希望を見いだす。私たちは、人間が自然の前では、いかに小さな存在であるかを学び、同時に、人として生きていくために「生かされたものが懸命に生きること」「人は他者を必要としていること」を学びました。卒業生は、どきどきしながら合格の受験番号を確認し、葺合高校の扉が開かれてからの3年間を含め、その復興に向けた18年という年月を懸命に生き、育ち、葺合高校を巣立ちました。

校舎建設工事が始まり、制限のある中での、授業、行事、そして部活動での姿を見ていると、筒台会の諸先輩方が築きあげてこられた伝統ともいべき、自由闊達に高校生活を謳歌する葺高生の気風。そして、その気風に加えて「懸命に生きるとは学ぶこと、懸命に学ぶことは育つこと」という歴史もまた、引き継いでくれたことを実感させられました。

今春は、新たに280名が入学し、全校839名の生徒が葺高生としての誇りを胸に、新年度を出発しています。そして、今年中には、HR教室、特別教室、職員室など、学校で学ぶために必要な機能をほとんど含んだ5階建ての校舎棟が建ち上がり、全学年の生徒が本年中に、新校舎で生活することになります。先生方、生徒たちと手を携えて、葺合高校の伝統と歴史を継承しつつ、新しい教育環境の整備と新しい教育活動の創造に向けて、懸命に全力を尽くしてまいりますので、今後とも筒台会会員各位の変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

この4月に科学技術高等学校から赴任して参りました。私は平成5年4月から平成16年3月まで理科の教諭としてこの葺合高校に勤務し、筒台会の皆様には本当にお世話になりました。ありがとうございました。その当時、職員室が二つあり、プレハブの第二職員室の進路指導部で11年間ずっと過ごしました。この間に阪神淡路大震災があり、避難所としての役割や生徒の進路保障という点で走り回った記憶があります。また、英語科から国際科に変わった時に進路指導部長としてかかわったのも思い出の一つです。その時には、学校が現地に残ったまま建て替えられることなど夢にも思いませんでした。一つ一つ思い出の詰まった教室や校舎が壊されていく様子を見ると、どうしても感慨に浸ってしまいます。しかしながら、新たな息吹が芽生え、歴史と伝統に支えられた学校が生まれ変わる瞬間に立ち会える喜びを今感じています。今回も仮設のプレハブで生活するとは思ってもよかったです。新しい校舎建設に向けた取り組みに精一杯尽力したいと思っています。

さて、私は「毎日を精一杯に生きる」という言葉が心の支えになっています。「生きる」ではなく「生ききる」という、「き」一文字の持つ重さがたまらなく好きなのです。人はこの瞬間にすべてを出し尽くしているのかどうか問われます。瞬間の積み重ねによって1日になり、1週間になり1年になっていくと思っています。今を全力で生きること。そして生きること。人として、毎日を、そして与えられたこの瞬間を「精一杯に生ききる」ことこそ、自分を輝かせる第一歩だと思っています。

筒台会会員の皆様には、これまでも増して葺合高等学校の発展を見守っていただきますとともに、変わらぬご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

平成25年度 教職員異動

退職	久住 勉	教諭	理科	仁川学院・葺合高校・非常勤講師に	平成4年4月から21年間勤務
	藤川 隆司	教諭	数学	葺合高校・非常勤講師に	平成15年4月から10年間勤務
	井原 信司	教頭	教頭	神戸工科高校へ	平成22年4月から3年間勤務
	中山 英人	教諭	国語	六甲アイランド高校へ	平成20年4月から6年間勤務
転出	翁 長 徹	教諭	英語	科学技術高校へ	平成23年4月から2年間勤務
	栢田 道子	常勤講師	家庭	大阪府立勝山高校へ	平成24年4月から1年間勤務
	中野 利香	常勤講師	英語	六甲アイランド高校へ新規採用	平成24年4月から1年間勤務
	小菅 美沙	常勤講師	英語	神港高校へ	平成24年4月から1年間勤務
ALT	岡本 佳子	臨時事務職員	臨時事務職員	灘区まちづくり課へ	平成24年12月から4ヶ月勤務
	マシュー・シチャノフ	JET	JET	丸山中学校へ(兼務：神戸工科)	平成20年9月から4年7ヶ月間勤務
	大西 一雅	教頭	教頭	科学技術高校より	
	一二三 大志	教諭	数学	科学技術高校より	
転入	澤田 菜穂子	教諭	国語	兵庫商業高校より	
	志賀 久美子	教諭	英語	兵庫商業高校より	
	小林 弘典	教諭	英語	神港高校より	
	宮崎 貴弘	教諭	英語	吉田中学校より	
	井上 道子	常勤講師	家庭	大阪府立西成高校より	
	永井 由紀子	臨時事務職員	臨時事務職員	六甲アイランド高校より	
新規採用	木下 智彰	教諭	理科		
ALT	ジョン・ボックス	JET	JET	夢野中学校より	

寄稿

“筒台会だより”

葦六会員からの便り「老兵未だ健在なり」

(中1回生) 京田 耕造

昭和14年(1939)4月に神戸市上筒井の丘に神戸市の永年の念願であった市立神戸中学校が創設されてから現在まで74年の月日が流れました。当時は五年制の男子校でしたが戦後は新制の葦合高等学校に生まれ変わり、代々の校長先生はじめ諸先生方、生徒諸君のご努力により目覚ましい発展を遂げて来ました。中学一回生としてこれほど嬉しいことはありません。

私達一回生200名が入学した当時の日本は既に大陸へ出兵しており、三年生の時には太平洋戦争に突入して一気に戦場が広がり、若者は陸士、海兵、予科練等に憧れる戦時一色の時代でしたが、宮地校長先生はじめ諸先生方のご指導のもと文武両道の勉学に励み鍛えられました。戦後の焼け野原から立ち上がり、日本の復興にしっかりと働くことが出来たのも筒台で受けた「剃刀より木刀たれ」という木刀精神を叩き込まれたお陰と思っています。その頃、紅顔の美少年だった我々も今では米寿を迎えた老翁になりましたが、マッカーサー将軍が残した言葉「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」ではなく「未だ健在なり」と云う心境で毎日を過ごしています。総領の葦六から名付けた一回生の「葦六会」は平成3年から23年まで20年間途切れなく続けて来ましたが、昨年の会報で会長の則武君が報告した通り、20回を節目として解散しました。然しながら筒台で鍛えられた友情の絆は断ち切れる筈もなく、また阪神を離れて住む者にとっては懐かしい故郷に帰る口実にもなりますので、独り歩き出来る内は元気に集まろうと話し合っ去年12月7日には有馬温泉の古泉閣に12名が元気に集まりました。今年も間違いなくまた集まる事でしょう。

神戸中学創立から終戦後しばらくの歴史的史話については高2回生の(故)森田修一氏が神戸の郷土誌「歴史と神戸」平成22年の第283号から「ああ筒台の辺に」と題して8回連載で詳しく寄稿されていますから是非ご一読下さい。

私は昭和19年(1944)春卒業してすぐに東京の学校に進学して上京し、その頃から現在まで殆ど東京中心の生活をしていきますので、昭和20年の神戸空襲で母校や我が家が全焼した時も、阪神淡路大震災の時も報道で知るだけで実体験はしておりませんが、20年の戦災直後に休暇を載いて帰神し稗田小学校(私の母校)の角を回った瞬間、一望千里の焼け野原を見て呆然としたことを覚えています。年老いた両親が無事であったことを知り最高の喜びでした。

出来るだけ機会を作って毎年の如く葦六会や八の会に顔を出して故郷の香りと友との会合を楽しんできましたが、同窓会と云うものはまずクラス会がしっかりしないと発展しません。自分のクラスを中心にして上下3年くらいは部活が違って顔は知っており話も通じるのですから、これが大切です。

終戦直後は在京の卒業生も片手で数えるほどしかいませんでしたから、新橋や池袋当たりの居酒屋に集まる程度でしたが、その内に社会人になった者ばかりでなく大学新入生も増えてきましたので広い会場が必要になりました。昭和45年の大阪万博の時に千里山と霞が関をテレビで結んだテレビ同窓会をしたり、昭和49年5月に讃岐会館で宮地校長先生、築山先生ご夫妻をお招きしての総会を開いたことなど走馬灯のように思い出されます。

その後昭和63年5月に、24年卒の麻植晃君が支部長の時に正式に筒台会東京支部と認定されて現在に至っています。東京支部は麻植支部長の後大林君、渡部君と引き継がれ、現在は47年卒の大政直人君が勤めています。会員相互の連絡もよく頑張っていますから、関東に就職や転勤で在住される様になりましたら、歓迎されますから、是非参加して下さい。待っています。それでは皆さん、御機嫌よう。

母校に寄せる4つの回想

(高5回生) 永田 良

「ふるさと」

昭和28年卒業の5回生仲間に私が誇れることが1つあります。

それは、「母校に一番近い所で今も暮らしている」ということです。

昭和23年、亡父はここ上筒井通1丁目に、質素な家を建てました。おりしも「小学区制」施行初年度の昭和25年4月、私は徒歩5分の葦合高校に入学したのです。地元の中学校出身でなかった私は、いわば転校生気分登校し始めたように思います。

爾来64年、年号も平成すでに25年、いまだにここで暮らしていますし、私の次の世代もおそらく住み続けるでしょう。こうなると葦合高校は、私と私の家にとってまさに「ふるさと」そのものです。

「ヨイトマケ」

入学はしましたが、はっきり言って当時の葦合高校は、教育環境的には劣悪でした。

旧神戸高商ゆかりの兼松記念館は僅かに外壁の赤レンガに面影を残すのみで、内部は空襲で瓦礫と化したまま、今で言うホームレスが幾組か住み着いていました。木造平屋建て校舎の壁はまるで馬糞を塗り固めたようなしろものでした。強く叩くと(或いはちょっと間違っ肘が当たると)すぐ穴が開くのです。ある先生が、「昨日まで在った壁が今日は無いう無い」と長嘆息されたという話は、今でもクラス会のお話の上位にランクされます。

運動場(当時はグラウンドとは呼ばなかった)は広がったです。広がったけれども整地はされていませんでした。失業対策事業として、「日雇い労働者」の人々が細々と整地作業をしておられました。最近話題の「ヨイトマケの唄」さながらの光景です。私たちも人海戦術で、学年単位、学級単位、時にはクラブ単位が、かわるがわるに整地の手伝いをしました。ツルハシも揮ったし、モッコもかつぎました。「ヨイトマケ体験」も、クラス会での懐旧談によく登場します。

「おっちゃん」

これは、バラック校舎南北棟の北隅にあった「うどん屋」の屋号です。今時の「学食」と比べると雲泥の差ですが、当時の私たちにとっては唯一の憩いの場でした。値段は忘れましたが、とにかく人気がありました。特に放課後の運動部員には貴重なエネルギー供給基地だったでしょ



う。「おっちゃん」という呼び名は自然発生的についたのですが、いつの間にか「屋号」になり、とうとう「生徒会」と「運動常任委員会」が連名で、「おっちゃん」と染め抜いた暖簾を贈るまでになりました。ありがたみとしたしみの象徴だった「おっちゃん」暖簾のその後の行方は残念ながらわかりません。

「養老忠義先生」

「生徒会」を組織し指導されたのは、5回生の学年担任養老忠義先生（化学）でした。5回生が生徒会執行部を担うめぐりになったとき、養老さん（とわれわれは呼んでいた）に背中を押されて立候補した者が多かったと思います。先生は決して弁舌さわやかな能弁家ではありませんでしたが、彼の発言を聞いているうちにいつとはなしに同感し、そして同意することが多かったのです。特別に理論武装されていたわけではなかったと思いますが、

一種曖昧な笑みを浮かべながら結局は相手を自説に引きずり込むと言うわざ、或るいは稀代のヘビースモーカーでいらしたから、何時の間にか相手を煙に巻くわざだったのかもしれませんが。

ちょうどそのころ、校内の或るスペースに木造だけれどモルタル塗りのちょっと瀟洒な建物ができたのですが、その中の一室を生徒会活動の拠点にするのだ、と宣言されて、本当に一室確保されました。ここから先はあくまでも私の想像ですが、多分その部屋確保のために、職員会議で彼なりの熱弁を振るわれたのではないかと思います。新築の一室となればどの部署も欲しがらるもので、「生徒会」のためとはいえ、なかなかOKとはいかなかったところを確保にこぎつけた「粘り」は、播州人養老さんの真骨頂だと思います。

平成24年2月、86歳でご逝去の報に接した5回生の中には、ひとつの歴史の終わりと受け取った者も居たようです。ご冥福をお祈りします。

「筒井が丘」は明治初頭は一面茶畑として栄えていたとか。茶畑こそ消滅しましたが、その後は「若者の学究の地」（今の校歌にもそのようなフレーズがある）として今に至ります。葺合高校生がこれからも芳醇な新茶さながらの若者であり続けてくれることを、私も学園のお膝元で暮らしながら、命ある限り見届け続けたいと思います。

戦争体験の語り部として

（高6回生）米倉 澄子（旧姓：柳瀬）

葺合高校の建て替え工事が順調に行われています。伝統ある現在の地での新校舎の完成が楽しみです。私達6回生が入学した当時の頃を偲んでおります。昭和26年、戦後の焼け跡にまだバラック住宅の残っている頃、入学しました。校舎は木造で隣との間の壁には小さな穴が空いていました。当時は雲中小学校との交互の授業です。私はバレー部に入部し、毎日ローラーを転がしてコートを整備し日々汗を流して練習した当時は懐かしく思い出します。雨の日は朝早く登校し、バレーコートが踏まれない様に見守ったのです。今の様に恵まれた環境のなかでのクラブ活動ではなく、男子は自分達の練習の合間に私達女子のコーチをしてくれました。お互い男女助け合っのバレー部でした。3年生の頃、中庭のある当時としてはモダンなパープル色の校舎が出来、校門も東側になりました。講堂はまだありません。卒業式は、隣の王子公園の建物（体育館か図書館か記憶は定かではありません）で行われました。卒業して半世紀以上はるか過ぎましたが、老若男女が深い絆で結ばれたバレー部のOB会は毎年11月3日に行われています。6回生の同期会「白雲会」も毎年活発に活動していましたが喜寿を迎え只今休養中です。

私は今、「神戸空襲を記録する会」、「国民学校と学童疎開を考える会」に所属し、戦争体験の語り部をしています。「戦争は、広島と長崎だけやと思ってた…神戸に空襲があって多くの方が亡くなったなんて知らなかった…」と子供や若い人達は言います。元気な間に68年前の出来事を語り継がなければと痛切に思っております。

最後に、この度、永年の神戸市への要請が実り、神戸空襲を忘れない

ーいのちと平和の碑ーが大倉山公園に建設される運びとなりました。昨年のバレー部OB会の折にみな様に碑の建設募金をお願い致しましたところ、バレー部OB会のみなさん、筒台会の方から沢山のご協力を頂きました。本当に有難うございます。感謝申し上げますとともにこの場をお借りして厚くお礼申し上げます。

お陰様で8月15日竣工式の運びとなりました。

卒業50周年記念同期会を終えて

（高14回生）水口 研二

筒台会の皆様お元気でしょうか。お伺い申し上げます。

私達、高校14回生（昭和37年3月卒業）は、本年卒業50周年を迎え、さる10月29日（土）午後1時からホテル北野プラザ六甲荘で記念の同期会を開催しました。当日は、恩師林田一雄先生、高木敏公先生、川野敏夫先生お三方のご来臨を賜りました。ありがとうございます。例年と違って、ちょっとした緊張感の中、華やかに開催されました。

また、私達の同期会は、平成4年第1回の時から数えて20周年、また、大方が古希を迎える大変お目出度い会となりました。

当日の模様を、5組のクラス幹事の久保山君が書いてくださっていますので、ご披露申し上げます。



第12回＜ゆうかり会＞

ゆうかり会 代表幹事（高16回生）三木 弘陽

11月2日（金）16回生 第12回＜ゆうかり会＞を催しました。“愛される不良ジジイ、非行ババアになろう、一緒に！『改めて宜しく！』”のサブタイトルもと、神戸っ子には懐かしい旧居留地オリエンタルホテルを会場に神田先生・竹内先生も不良ジジイ、非行ババア願望者の仲間に加わって頂き、90名が集まりました。

ゆうかり会のもとにはゴルフ部、麻雀同好会、たそがれ旅倶楽部、遊友会、新三九会、歩こう会…等々サークルがありよく集まっておりますが卒業して48年、ほとんどの仲間が社会の第一線から退いており、これからの老人に向かう人生が引きこもりジジイ・ババアにならない為に『従来にも増して仲間の絆を深め、広げよう！』と声をかけ合いました。



志水筒台会会長（16回生）から母校校舎建て替えの状況報告とそれにもなったのゆかり会からの30万円の寄付に対してお礼の言葉がありました。福岡日雙師（陸上部）には年代を重ねることの夫婦円満の秘訣を、特に60代後半には、粗大ゴミでない為にはどうであればいいのか語ってもらいました。

「ラウンジふさ」を借り切った二次会も40名が集まり歌う者、しゃべる者、本会と共に盛況にて終わりました。神田先生・竹内先生、ご出席賜り有難うございました。

今回は再来年、ゆかり会50周年であります。どうかご健勝でまたご出席頂けますよう祈願致します。

『口』で行う『確かな』教育

（高19回生）宮地 徹

教育者や指導者の暴力問題が社会の物議を醸しています。こういった問題は昔からたくさんありました。闇に葬られていった悲しい出来事も少なくはありません。そこに至るまでに、互いの人間関係（主に信頼関係）がどうであったのかという点に着目せざるを得ません。両者の間に尊敬と信頼の気持ちがあることが、キャッチボールの前提条件といえるのではないのでしょうか。



ここに『口へん5画のタ・シ・カ』について述べたいと思います。

「叩く」とは、言葉や文章などで、人の過ちをただして戒めます。打ちのめします。悔い改めさせて奮起を促します。そして問いたずねて自覚を求めます。ここには怒りや憤りの気持ちはありません。むしろ情熱を感じますね。『叩（ふしづくり）』は、人がひざまずいたさまで、額を地に打ち付けて礼を行う大切な言葉だということを申し添えておきます。

「叱る」とは、愛情と責任を伴う言葉です。指導者は感情を制御して、言葉や態度で注意を与えて、よりよい方向を指し示し、導きます。『叱』という文字はすくうサジと突きつけるヒ首（あいくち）の意味をもちます。女性が腰をかがめて腹ぼう形からできています。また舌打ちや物を切るとききの音でもあるのです。

因みに「叱る」の反意語は、「無視する」です。人に対して当然注意すべきことを、不注意または余裕がなくて軽視することで、責任を回避することでもあるのです。この辺りに問題の指導者たちの力量が垣間見えるような気がしてなりません。「叱る」の反意語が「褒める」と考えられがちですが、「褒める」の対応語は「貶す（けなす）」なのです。

「叶う」とは、文字通り多くの努力を伴うものです。互いの夢や希望が成就することです。力いっぱい次のステップに向かって、羽ばたいていくことでしょう。

これらのことから昔の親子、師弟関係がうかがい知れませんか。私たちは世界に類を見ない、豊かな言葉の表現の文化をもっているのです。

国をつくるのも人、人をつくるのも人なのです。

葺合21期会同窓会

（高21回生）三宅 均

2000年に有志の呼びかけで開かれた同窓会、卒業以来31年ぶりの再会という同窓生も多く近況や昔話に花が咲き予定の時間はすぐに過ぎてしまいました。その時各クラス代表が決まり、これからは21期会として4年毎の同窓会開催が決まりました。それから12年の歳月が過ぎ3年前には還暦を祝う会をすませ、昨年は4回目の同窓会を開くことができました。同窓会も4回目となりますと当初100名近くいた出席者も50名ほどに減りほぼ決まった顔ぶれとなってきています。話題は相変わらずの昔話を中心に、孫自慢などが増えてきています。



まだまだ現役で忙しい方、家族の介護や当日の家庭の都合で出席できなかった方々もおられますが次回での再会を楽しみにしています。同窓会には先生方にもご参加をお願いしておりますが、中でも毎回出席いただいている神田先生（第9代校長）におかれましては、すでに90歳を超えられたとは思えない元気なお姿をみせていただきました。また今回は有意義なお話などを聞かせていただき出席者一同うれしく思っています。

我々21期生もまだまだ元気な先生方に負けぬよう、これからも頑張っていきたいと思っております。



ある集い 神戸スポーツマンほろにが会のお誘い

神戸スポーツマンほろにが会 会計・司会担当（高21回生）武内 福子

スポーツとアサヒビールを愛して47年

昭和41年7月14日パリ祭の夜、当時神戸支店勤務だったアサヒビールの瀬戸雄三氏の協力を得て第一回例会が38名で開催されました。以後例会日は毎月第2金曜日、時間は午後6時から7時まできっちり一時間。水泳関係者が多かった為、開会と閉会合図は鐘をカランカラと鳴らし、昭和42年第8回例会から修了時には全員でベルリンオリンピックの歌「走れ大地を～」と国体賛歌「若い力と感激に～」と元気よく歌います。今日まで47年間、阪神・淡路大震災のあった翌月2月だけが休会となった。40年以上元気に出席されている方も・最盛期には100名を越す会員数を誇ったが現在では50名前後である・会員の中には往年のオリンピック選手がいらったり、とっておきのスポーツの話を伺って度々感動をすることがあります。ひょっとしたら懐かしの先輩方に会えるかも!!すばほろを通じて沢山の方々との出会いも本当に素晴らしいものです。そしてどなたもアサヒビールをこよなく愛するスポーツマンでありたく思います。因みに葺合高校卒業のメンバーの方は50音順に大中照幸（6回生）、貞松篤志（12回生）、高瀬将郎（9回生）、武内福子（21回生）、前川卓嗣（陸上部）、これからもスポホロの例会を盛り上げていく為に若い世代の活力のあるスポーツマンの参加を切に願います。ここで神戸スポーツマンほろにが会会則を紹介します。





第一章 総則

第1条 名称

本会は神戸スポーツマンほろにが会（呼称：すぽほろ）

第2条 事務局所在地

〒650-0023 神戸市中央区栄町通1-1-18 アサヒビル神戸支社内
事務局担当：小泉 TEL.078-333-1304 FAX.078-333-1371

第二章 目的並びに活動

第3条 目的

本会は会員が一堂に介しアサヒビールを飲み親睦を深めることを目的とする

第4条 活動

本会は毎月第2金曜日午後6時より7時迄
定例会場（現在は元町駅の北側私学会館1Fにあるハナワグリル（078-332-0878）に集合してアサヒビールを飲み歓談する。

第三章 会員

第5条 会員資格

本会会員は男女を問わず20歳以上、神戸とスポーツとアサヒビールを愛する者

第6条 入会

本会に入会する為には会員の紹介によりゲストとして例会に3回出席しなければならない。3回目に入会を許される。

現在では入会条件も門戸を広げています。

23回生同期会を終えて

（高23回生）大庭 義弘

2012年11月17日に10年振りの第2回23回生同期会がニューミュンヘン神戸大使館で開催されました。今回は、前回は上回る100人以上の出席で、次々と会場に来られる同期生の中には名前が解る人そうでない人も、事前に用意した卒業アルバムからの切り抜き写真付き名札を見ては「おお～久しぶり」とか「全然変わってないねー」とか思い思いの会話を交わしつつクラスごとのテーブルへ。開宴時にはすでに高校時代を彷彿とする賑やかさになっていました。

やはり同期会はいいものですね。青春時代のほんの3年間、同じ学び舎で過ごしたというだけで、現役時には言葉も交わせなかった人達とも40年後の今こうして簡単に会話が出来る。ほんとに同期生はいいものです！

楽しい、懐かしい、色々な思いをそれぞれ語り、食事をするのも忘れるぐらい充実したひと時でした。



最後には、校歌を斉唱し、5年後の再会を約束し閉会となりましたが、半数以上の人達は中野君・見取君が準備してくれた2次会のカラオケ会場へ向かい、さらに3次会へと消えた人達も多数いたとか…。



予定していた全体写真が会場の関係で取れなくて残念でしたが、クラス写真やスナップ写真を<http://yahoo.jp/box/z-D7k0>で公開していますので、出席できなかった人も閲覧して下さい。

5年後には、また多くの同期生に再会できることを望んでいます。世話役の皆さん出席された皆さん本当に有り難うございました。

24回生 大忘年会開催

（高24回生）曾根 武夫

24回生の集い、“葺合ひろがり24”恒例の大忘年会が2012年11月19日（土）、神戸北野ガーデンにて盛大に行われました。同窓生58名に加え5名の先生方のご出席をいただきました。

会は幹事長の挨拶から始まり乾杯の後は、谷浦（松村）淳子さんの知人で元宝塚の桐生のぼろさんによるミニコンサートが開かれ、プロの歌手による歌や踊りを堪能し大いに盛り上がりました。神田先生、藤田先生、梶田先生、加藤先生、大垣先生から一言ずつお話をいただき、皆真剣に聞き入っておりました。

ありがとうございます。先生方も40年が経ち高齢にもかかわらず、さすが話すのがお仕事だけあり話が非常にうまい。特に記憶力の良さはものすごいものがあり、やはり先生になる人はどこか違います。

その後恒例の抽選会が行われ、一同盛り上がった後も昔話や近況について時間の経つのも忘れ語り合いました。

同じ時代を共有していることで、ほとんど初対面に近くても40年前からの知り合いと感ぜられる事の不思議さ。何の警戒心もなく色んなことが自然に話せる安心感。あの先生はこうだった、あいつはあであったなどと話すと、気持ちはいつの間にか40年前の女子高生、男子高生に。本当に不思議な思いです。また葺合高校がいかに素晴らしい学校であったかという事が再認識されました。

今年（平成24年）は我々が還暦になる前年の忘年会とあって、自然と還暦に関する話題が多く、来年は還暦を祝う会、還暦前旅行などに行こうなど本当に元気な58-59才でした。その後、さらに話し足りない（飲み足りない？）者は二次会へと向かいました。

来年は我々にとって節目の年であり今年以上に多くの交流の場を持ち、さらに24回生の輪が広がるようになればと思います。

また、毎回忘年会実施の為の準備作業、会場の提供、連絡事務など多くの事をこなして下さっている皆さんに改めて感謝です。



ひまじん パリの暇人

(高24回生) 浜 和幸

大学に入ってみたら何と授業がある。出席もとる。体育まである！なんだこりゃ？我が母校、神戸の葺合高校にはこんなものは無かったぞ。毎日が天国だった。三年間本当に楽しかった…（私は）授業など聞いた事もない。てなわけで私は入学して二ヶ月で、大学から逃亡する事に決めました。行き先はどこでも良かったのですが、当時私は北杜夫を愛読していたのでドイツにしようと思いました。そこでしばらくドイツ語を勉強していたのですがドイツの大学には入試があるがフランスの大学は日本の高校を出ていれば誰でも入れるという事を知り、急ぎょフランスに方向転換しました。そして1974年4月、20才になったばかりの私は生まれて初めてひとりぼっちで大阪より遠い所に旅立ちました。フランス語の辞書以外に本の体裁をしていたものとしては葺高の卒業アルバムだけをスーツケースに入れてパリ行きの飛行機に乗りました。

その時は2,3年で帰ってきて大学に復学しようと思っていたのですが結局その後39年もパリで暮らしてしまいました。しかしフランスでも大学生生活に馴染めず、サラリーマン生活も好きになれず、結局零細自営業者になってなんとか落ち着けたと思っていたら大病をして、55才で倒れてしまいました。

その時リハビリセンターの医師から、死ぬまで毎日1,2時間歩く様にと指示されたので、趣味のカメラを持って散歩しようと思い写真ブログを始めました。そのブログを偶然葺合の同期生が発見してくれて交信が始まりました。パリまで会いに来てくれた友人もいたし、私も神戸での同期会に参加したりして多くの同期生達と再会する事ができました。24期生はもうすぐ皆還暦です。しかし私にとっての日本は、今も昔も神戸の葺合高校時代の生活と仲間達だけなんだなあ日々実感しつつパリでなんとか生きています。24期生だけでなく、同窓生の皆さん、ご家族、友人の方がパリにいらっしゃる様な機会がありましたら遠慮なく御連絡ください。私はいつも暇です。



昨年12月22日交通センタービルの燦でX'masパーティーを行いました。今回はやや少な目で20名ほどが集まり、食べ飲み、おしゃべりをし、最後はプレゼント交換をして楽しい時間を過ごしました。

還暦にはどこか（海外？）旅行にいきたいね、と話が盛り上がり、本当に良い付き合いを続けています。

オリンピック年に開催

(高33回生) 増田 精三

4年に一度のオリンピックイヤーに開催する、葺合高校33回生の3回目の同期会を、2012年ロンドンオリンピックの真ただ中の7月29日に開催し、グリーヒルホテル神戸にて約100名仲間と恩師が集まりました。

今回は、神田元校長を始め竹内元校長も体調を崩され欠席されたため、少し寂しい同期会になってしまいましたが、また4年後に元気なお姿で参加していただくことを期待しながら懐かしい再開を終えました。

今回初めて参加された方も数名いらっしゃいましたが、この会報を通じて次回参加される方が増えていくことを期待しています。



近いうちに会おうね！

おう りつび
(国際科2回生 平成17年卒) 翁 立薇

「君と夏の終わり 将来の夢 大きな希望 忘れない
10年後の8月 また出会えるのを信じて 最高の思い出を…

“Secret base ~君がくれたもの (歌手: ZONE)”
葺合高校で採寸して初めて袖を通した日を今でも鮮明に覚えています。初めての課題提出に間に合わず、そろって一緒に怒られたクラスメイトは今でも何でも話す「心友」です。校舎の窓からのぞく景色を背景に、



29回卒業生 X'masパーティー

(高29回生) 船引 園美

私たち29回生は50才になる。平成20年初めての全体同窓会をエスタシオンデ神戸で行いました。約半年の準備期間をもうけ、8割方、現住所を確認し、当日約180名が集まり、久々の再会をととても楽しみ大変盛り上がりしました。それ以来とても良いつきあいが続いています。人数の多少はありますが、ほとんど毎月のように会う機会をもうけ、新年会や花見の会、納涼会やX'masパーティーなど、理由をつけては会っています。



これからの夢や10年後、20年後の将来について沢山語りました。

10年たった今、落ち着きは増していますが、それぞれの仕事や近況を語る目はみんなとても輝いていて、キラキラしていました。楽しいひと時でした。

2012年8月12日、本格的な工事が始まる直前のこの日に見た景色を、もう二度と見られないのは、本当寂しいけれど、葺合高校での最高の思い出はいつだって、心のアルバムにあります。

高一の文化祭で有志グループにも使われた歌に思いを載せて「みんな、また近いうちに会おうね！」

私の大学生生活・ダンスでの取り組み

(国際科5回生 平成20年卒) 福永(陳) 翔子

葺合国際科5回生、当時生徒会長を務めました福永(陳) 翔子です。

高校卒業後、関西学院大学総合政策学部(三田キャンパス)に入学し、ダンスサークル【NEY-KID】に所属し4年間はダンスに熱意を注ぎ、そして野外活動にも積極的に取り組む姿勢は高校のときから相変わらず、2回生にビジネスセミナー【NPO団体:CVS】で2ヶ月渡米し、3回生で1年間交換留学生として上海【復旦大学】に語学だけではなく国際経済の勉強のため留学。4回生には学生起業家の友人に誘われ関東大震災を機に一般社団法人【eadi works】の人事としてシルクプレスレットの商品開発に携わるなど、多忙な4年間を過ごしました。この多忙な大学生活で常にダンスとの両立に奮闘しました。

高校では野外活動として小・中学と続けていた中国舞踊を続け、葺合祭でも有志ダンスで披露したり、南京町で春節祭・中秋節の時期や結婚式などの披露宴にも出演したりと小さい頃から人前で踊ることは好



きでした。

中国舞踊の他にも5歳のときにジャズダンスをした経験もあり、高校から本格的にヒップホップなどのストリートジャンルにも幅を広げ、最後の葺合祭でヒップホップグループを結成し、有志ダンスで盛り上げ、ダンス同好会の立ち上げがしたいと考え、まずは実績からと体育の辻本先生を巻き込み、率先して創作ダンスのコンテストに出たこともありました。

大学のサークルに所属して、ジャンルを決めるにあたって、今まで経験したことがないジャンルに挑戦しよう、人と違うスタイルを試してみたいという気持ちから女子が希少なPOPPINGというジャンルを選びました。一言でいうとマイケル・ジャクソンが踊るようなスタイルになります。このジャンルの中では唯一の女POPPERなので、紅一点としてチームを盛り上げました。

年間行事でショーやクラブでバトルに出場し、スキルを上げていき、サークルとして仲間の絆を深めました。また他の大学との交流もあり、知り合ったダンサーとの繋がりからメンバーを集め、イベントのショーケースや個人でもソロで出演しました。ダンスによって人間関係を構築し、振り付けの際には意見の食い違いもあり、スキルの伸び悩みで葛藤し、自分も楽しみながら人を楽しませる難しさを学びました。イベント前にはメンバーとのスケジュールを合わせアルバイトの後、夜中から朝にかけて練習することが増え、体力的にも限界を感じたこともあり、両親には心配をかけ、反対されたこともありましたが、イベントには見に来てもらいダンスへの熱意を理解して応援してくれたときはとても嬉しかったです。

また、ビジネスセミナーの活動でアメリカではダンスを通じてコミュニティが広がり、ダンスはどこにいてもできるので、誰とでも仲良くなれるひとつのツールとして活用し、セミナー行事を盛り上げるムーデメーカーとして活動に貢献しました。

上海に留学中にもサークルの活動は休部せず、スカイプで先輩たちが撮ったビデオを送ってもらい、振り付けを覚えて個人練習し、年末に帰国してはイベントにメンバーとして参加していました。また、上海のダンスシーンも盛り上がっていたので、留学生のダンサーと知り合い、寮のロビーで一緒にダンスの練習をしたり、講師としてレッスンを設け、ダンスに興味をもった友人に声をかけ、初心者でもやってみたくて通う留学生から声をかけられたり、その場で参加してもらってダンスの基礎を教えていたりしました。サークルを離れている間も自らダンスする機会を作りました。それによって友達の輪がいきなり広がり、寮では一躍有名になりました。

現在大阪で中国専門の貿易商社に営業で務めており、なかなか大学の時のようにダンスする時間がないので悔しいですが、機会があればスクールに通ってダンスしたり、また大学のサークルのメンバーと一緒に踊りたいと思っています。今でもたまに家で一人音楽をかけて踊っている自分があるので、ダンスが好きな気持ちはこれから先もずっと変わらないでしょう。

ダンス一つで世界共通言語のようにコミュニケーションができ、ダンスは人を笑顔にし、楽しませる素敵なパワーがあると実感しています。

葺合高校63回生同窓会

(高63回生) 加藤 結子

2013年1月14日、私たち63回生は成人の日を迎えました。この日を迎えるに当たり、1月12日に同窓会を開催しました。

今回の同窓会は、筒台会役員と有志による卒業生が幹事となり企画を進めました。シャンパンマンによる乾杯から始まり、立食形式のパーティーでビンゴやじゃんけんゲームなどのゲーム大会も行いました。

ゲームでは、クラス関係なくグループを作り様々な人と話をしてもらえるように工夫しました。両ゲームとも豪華な景品を用意し、景品獲得のために全員が必死になりグループで力を合わせていました。参加された先生が景品を手にし、会場中ががっかりした気持ちと笑いに包まれるという場面もあり、終始和やかなムードで同窓会を進めることができました。卒業して約2年が経ちましたが、何事にも一生懸命な姿はやはり葺高生だな、と思いました。

忙しい時期ではありましたが、90名以上の参加がありました。大規模な同窓会は一昨年前に行われた筒台会総会・懇親会以来であり、久しぶりに会う仲間との思い出話や卒業後の話に花を咲かせ会場は大変な盛り上がりでした。参加者全員が楽しめた会になったと思います。

企画、準備から当日の会場運営の役割を担ってくれた幹事の皆さん、参加してくれた卒業生の皆さん、協力していただいた方々、本当にありがとうございました。おかげで今回の同窓会は大成功を収めることができました。

私たちは二十歳という大きな節目の年を迎えました。社会からは「大



人」として認められるようになり、それと同時に様々な責任も生まれてきます。それぞれの行動に成人としての自覚を持ち、社会に貢献できるよう邁進していきたいと思えます。

筒台会ホームページ
todakai.net

同窓生の情報をいち早く皆様にお知らせするHPです

- ◆「伝言板」は会員相互の情報機関です、自由に書き込みができます。
- ◆「同窓生の広場」は、筒台会・同期会・OB会等の情報をお伝えします。
- ◆会員の「住所変更」はここから連絡してください。
- ◆トップページには「広告欄」があります。
(年間) ¥12,000円で広告掲載できます。

新天地で花咲く「葺合桜とつつじ」

(高16回生) 榎原 充俊

母校の建て替え工事は平成28年の完成を目指して順調に進んでいます。引き続き母校で歴史を紡いでいく物、役割を終えた物の選り分けも終了したようです。

その中、母校から移植され、新たな歴史の根をはろうとしている樹木があります。「葺合さくら」と「葺合つつじ」です。

部室の前で花を咲かせていた桜が運ばれたのは、六甲アイランドに開設された女子サッカー「INAX神戸」の専用練習場です。正門を入るとすぐ目に留まるのがピンク（桜色）の看板と3本の桜の木です。「葺合さくら」と書かれた看板には「この葺合さくらは、神戸市立葺合高校の建て替え工事に伴い、当神戸レディースフットボールセンターのシンボル樹として移植されたものです」と説明されています。3本の「葺合桜」は、女子サッカー「なでしこジャパン」の礎



摩耶ケーブル駅に移植された「葺合つつじ」
(プラットフォーム脇)



神戸レディースフットボールセンターに移植された「葺合桜」



摩耶ケーブル駅の説明看板



摩耶ケーブル駅

となったチームを、自らも成長しながら見つめていくことでしょう。

母校の正門に入って上筒井小学校との間の垣根になっていたつつじは「摩耶ケーブル駅」に移植されました。ケーブルの乗り場側プラットフォーム脇の傾斜地が「葺合つつじ」の新天地です。20メートルほどの植え込みとなっています。五月の連休には美しく咲き誇り、登山客の目を楽しませてくれることと思います。

神戸高商時代から受け継がれてきた「知恵のツボ」、正門の「フェニックス」、神戸一中時代の「南門」などは残されるようです。

私たち16回生のシンボル「ユウカリの樹」は、すでに伐採されてしまいました。残念ですが、同期会の中でいつまでも青々と輝き続けています。

第14回
親睦会

FSC2000

葺合高校・スポーツ・クラブ・2000

平成25年2月23日（土）18時から南京町の＜龍郷＞（経営する雷さん兄弟の内、3人が葺合の同窓生）にて第14回FSC2000親睦会が開催されました。参加OB会は、野球・陸上・サッカー・剣道・テニス・バスケットの各部でOB・OG合わせて49名の参加でした。

今回は、バスケットボール部OB会が担当幹事で38回生谷口昌樹さんの司会のもと、小西博明バスケットOB会会長の乾杯、不動譲FSC会長の挨拶「我々の時にも、体罰はありました。しかし、これは先輩が行い、納得していて不満は無かった」と体育会系は皆同意したのは？？古い考えかもしれませんが…。

恒例のビンゴゲームで雷さんから豚まん焼豚の景品を差し入れていただき、一同おおいに盛り上がりました。

最後に志水利達筒台会会長から「FSCから毎回筒台会に寄付をいただき感謝しています、現役の生徒は今年から部活の経費を50%負担しないといけません。筒台会も全面的に母校を応援しますのでよろしく、FSCから筒台会に3代続けて会長を送り出しています。」と感謝の挨拶があり、次回開催を約束し解散しました。バスケットボール部OB会幹事さんありがとう。

次回は、剣道部の担当です。



バレー部OB・OG会報告

バレー部OB・OG会事務局

<その1：なつかしの体育館で合同練習>

葺合高校舎の全面建替が進む中、思い出の多い校舎や練習で汗を流した体育館も見納めになるかもしれないということもあって、平成24年8月11日（土）バレー部OB・OG相互の親睦と現役部員との交流を目的とした合同練習を行った。

当日は若い方を中心に42名（男子16名、女子26名）のOB・OGが葺合体育館に集まった。午前中は男女それぞれに分かれて現役部員との練習試合で汗を流したり、校舎を見学したりし、その後会議室でお茶とおにぎりで懇談して解散したが、卒業後初めて参加したというOBもいて有意義な企画であったと思っている。なお、この企画が実現できたのは現役の顧問の先生方のご協力のお蔭と感謝している。



<その2：60回目の総会・懇親会の開催>

毎年11月3日に開催している総会・懇親会も今年で60回目を迎え、当日会場の新神戸サンホテル内の「マダムキキ」に36名のOB・OGが集まった。今年は総会・懇親会に先立ち例年出場している「神戸新聞9人制バレーボール大会」に若手OBの活躍で、昨年の雪辱を果たす念願の1勝をあげたことから、その話題で懇親会も大いに盛り上がった。また、古いアルバムを見ながら現役時代の思い出やOB・OG会60年の歴史を振り返るなど、和気藹々のうちに予定していた時間があっという間に過ぎ、来年の再会を約して散会となった。



例年この懇親会には若い方の参加が少ないので、来年は是非若いOB・OGの方が少しでも多く参加されるよう切望する次第です。

夏の光

ボードレールに、「さらば、つかのまの われらが 激しき夏の光よ！」と訳されている心に残る詩文がある。これを、我流で意識すると、以下の通り。

我々の生における謳歌は、夏の光の下にあって、いまなお、記憶に鮮烈に残っている。夏の一日は、生の充実にあふれていた。それらは 過ぎ去ってしまっ、戻って来るわけでないけれど、夏になると思い出し、夏が過ぎ、中秋の名月あたりのひんやりとした風が吹くと歌いたくなる。

馬齢を重ねると、その思い出こそ、生きてきた証のように感じられる。少年時代は黄金のように輝き、詩人が激しき夏の光と歌ったように、人生の肯定、生きていて良かったと思える時間を持っていた。海水浴、魚とり、朝早く起きてかぶと虫、井戸で冷やされたスイカ、山登り、吉野川の川遊び、水に冷えた頬を焼けた岩に当たると、ゆっくり消えていく黒い氷あと、真っ青な空、輝く入道雲、すぐさま稲光、土砂降りの雨、縁側から雨が跳ねる景色を飽かず眺める、止むと見晴らすばかりの、竹林と吉野川、貞光の町の後ろにそびえる青い山と、谷また山。自然との感動的な邂逅だった。いつか、自死を想像する事あっても、その瞬間を思い出す余裕があれば、止まれる事柄。それらを含めて、詩人は歌ったのだと思われる。毎日は過酷に過ぎて行き、叙情的であることは、生活不適者となじられる。しかし、目鼻の達人のように生きられずとも、時には、よいではないか。

青い太陽にさざげられた 水しぶきよ 白く輝いて飛翔せよ！

生には、他者との付き合いで生まれる、苦しみと喜び、自然の中で生まれる感動と恍惚、慈母のような自然と厳父のような自然との邂逅。他者からの苦しみは自然が癒し、自然からの苦しみは他者と分かち合う。世界は、他者だけで成り立っているのではない。自然がある。

男性的なる小児性は隠されていても生涯にわたって現れてくる。そして、しらすしらすに、秋のひんやりとした季節を迎えると、なにやら心ざびしくなるのは、過ぎ去ろうとする夏には、あの激しい季節を包摂した経験があるからなのだ。そして、惜別の名残を込めて「さらば つかのまの われらが激しき夏の光よ！」と 歌うのだ。

(高21年生) 近藤 蔵人

新校舎建設 工事状況

平成28年に完成予定の新校舎建設工事が順調に進んでいます。平成24年の4月から始まった工事は擁壁工事・第1期解体工事を終えて、第1期建設工事中で、校舎の形が少しずつ見られるようになっていきます。



グラウンドへのスロープ建設工事



本館の解体工事が終わり
第2体育館の解体も始まる



スタンド解体に向けて
植木の撤去が始まる



本館・第2体育館・部室解体後の跡地



第2体育館の解体が終了



基礎工事が始まる



南館建設予定地の地下掘削



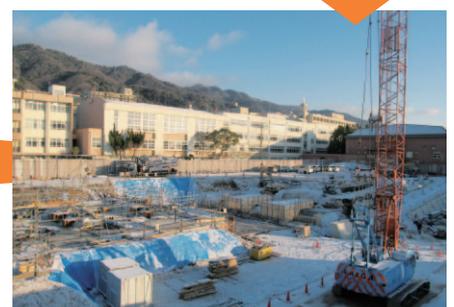
基礎工事のための鉄筋の
組み立て



仮設校舎から見た
西側工事現場



新校舎東側の基礎工事



雪の朝の工事現場



東側部分の1階フロアのための
枠組の状況



体育館側から見た工事現場



2013年4月22日現在の工事現場

TOPICS 母校トピックス

早く広く知らせる「葦合ニュース」

広報企画部では、活動の一環として「葦合ニュース」を発行しています。「葦合ニュース」の目的は大きく2つあります。まず在校生の保護者や地域の方々に葦合高校の生徒のがんばっている姿を広く知っていただくためです。2つめには、中学生とその保護者及び中学校の先生方に葦合高校の生の姿を知っていただき、進路を決定するときの参考にしていただくためです。

この目的のためにやってきたことは以下の通りです。

- ①行事ごとに「葦合ニュース」を発行し、広く関係者に配布
(例. オープンキャンパス、オープンハイスクール、葦合祭、体育大会)
- ②中学校訪問や中学校向け進路説明会での「葦高ニュース」の配布
- ③「葦高ニュース」を拡大して、行事終了直後に校門わきに掲示
- ④筒台会、筒友会などの会で配布

広く人々に葦合高校の活動の様子を知っていただくために、これからも鋭意「葦合ニュース」を発行し、広報活動を活発に進めていきたいと思っております。

平成 22年 6月 9日
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.7 2012



5月31日(金)、本校の姉妹校である台湾の台中第一高級中学より、生徒103名、引率の先生方8名が本校を訪問しました。

午前10時すぎに台中一中の一行が到着。正門から歓迎行事を行なう講堂まで、1年生全員で花道をつくって出迎えをしました。講堂では両校校長のあいさつや記念品の交換、両校生徒代表のあいさつに引き続き、両校からのパフォーマンスがステージで行なわれました。

葦合高校からは、2年生有志によるダンス、コーラス部の演奏が披露され、台中一中からは、生徒全員による合唱と、有志によるダンス、マジックが披露されました。その後、葦合高校のなぎなた部、少林寺拳法部の演技が披露されました。



講堂での歓迎行事ののち、台中一中は7～8人のグループに分かれて本校2・3年生の各クラスに移動。昼食をともしたのち、各教室で日本の文化を紹介したり、台中一中の生についての質問に答えたりするなど、各クラスごとに工夫をして交流をしました。

台中一中の来校はこれが5回目。平成20年に姉妹校となって以来、本校からも毎年台湾修学旅行の際に訪問し、交流を深めています。

平成 24年 10月 5日
神戸市立葦合高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.13 2012

オーストラリア短期研修



2012年7月29日(日)～8月12日

1年生、2年生合わせて16名が、仲村先生と板倉先生の引率のもと、夏季オーストラリア研修に参加しました。この研修で初めて海外へ行くという生徒もいました。2週間の生徒たちの活動報告が毎日校内HPにアップされ、楽しく充実した日々を送っている様子を見ることができました。

「オーストラリア研修だより」より生徒の感想(抜粋)



7月30日 神戸の紹介

★熱心に聞いてくれて、興味を持ってくれたりしてとても嬉しかったです。プレゼンは緊張したけど、温かく見守ってくれて嬉しかったし、日本のことに興味を持っている姿を見て見習いたいと思いました。

7月31日 全校集会、技術工作、プチ体育会

★この日は日本と同じように全校集会がありました。内容も大差なく、校長先生の話に始まり、指導部からの話、表彰などがありました。技術工作の授業に参加しました。写真の木枠の作成に挑戦しました。のこぎりをうまく使えずに苦労しました。モーニングタイムのあとにプチ体育会があり、クリケットをしました。16人にとって初体験のスポーツでしたが、ルールを覚えてもらいながら楽しめました。

8月1日 ソーセージロール作り、日本文化紹介

★調理実習も体験しました。「ソーセージロール～オージー風ソースを添えて」を作りました。鶏ミンチ、玉ねぎ、トマトペーストなどを入れた具をパイで包みました。

★友達できました。オーストラリアで人気の日本人の名前が「Yuki」で驚きました、またオーストラリアの生徒たちに喜ばれました。英語をどんどん積極的に話して、この2週間を意味のある将来に残るものになりたいです。



8月3日 音楽、書道の紹介

★音楽の授業で、オーストラリアの第2の国歌と言われる"Waltzing Matilda"を習いました。部屋の中が奏すぎで、うまく歌えませんでした。オーストラリアの伝統的な言葉がたくさん教えてもらいました。パソコン、物理などの授業も体験しました。

★書道を紹介、そしてケドロン生に体験してもらいました。プレゼンに釘付けになって聞いてくれました。ケドロン生は苦戦しながらもいろんな文字を書いていた。「ありがとう」と書いている子もいました。しんごママを歌ってくれて嬉しかったです。もっと書道に興味を持ってもらえるとうれしいです。週末にホストファミリーに教えるのでがんばります。

8月8日 日本文化紹介



★8年生の日本語の授業でプレゼンをしました。はじめに神戸の紹介をしました。みんなたくさん質問してくれてとても興味を持ってくれたんだなと思いました。次のソーラン節を踊りました。はっぴを貸したらすごく喜んでくれました。最後に全員でソーラン節を踊りました。みんなダンス好きで、なにも教えていないけど、まねて踊ってくれてすごく楽しかったです。

ケドロン生と



折り紙(男)

福笑いの紹介と体験



兜をかぶって記念写真

葦高生による合唱



ケドロン高校前で記念写真



8月2日 ブリスベン市内観光



ケドロン高校の最寄り駅より電車で約15分。ケドロン高校のヨウ先生の案内でブリスベン市内の観光にきました。中心街を散策し、CITY CAT (小型水上バス)に乗って人気街のサウスバンクに移動しました。ランチと買い物を楽しみました。

8月6日 オーストラリア動物園



★オアラに触りたい！カンガルーに会いたい！"Australia Zoo"に行きました。自由時間が2時間とたっぷりあったので、いろんな動物を見て回りました。英語を話すインコ、クロコダイルのショー、お土産やさん、楽しめるものがたくさんあって、あっという間に時間は過ぎました。

8月8日 シーワールド



8月11日 キュランダ観光



平成24年10月4日 神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.14 2012

GO!GO!GO!葦台魂



9月17日(祝)に王子スタジアムで体育大会が行われました。校舎建て替え工事に伴って、初めての校外で開催された体育大会でした。当日は天候に恵まれ、生徒たちもきびきびと、また精一杯競技をし、大きな声援と拍手が会場に響き渡りました。

普高生全員の一体感が生まれたこの日。生徒1人1人の胸に葦高生としての誇りがさらに育まれた一日でした。来年の体育大会も王子競技場で開催されますが、そのときには生徒たちはさらに一回り成長した姿を見せてくれることと思います。



平成24年10月4日 神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.15 2012

教育奨励賞特別受賞

この10月1日に神戸市立葦台高等学校は第27回時事通信社教育奨励賞の「特別賞」を受賞しました。この賞は時事通信社が全国の小中高等学校を対象に、授業の革新や地域に根ざした教育をテーマに創造性豊かでユニークな教育を行っている学校に対して表彰されるものです。本校は、テレビ会議などを多彩に展開し、国際としての能力育成を図っている点を評価され、ICTなど、新しい教育課題に積極的に対応する学校を対象にした特別賞に選ばれました。

普高高校では、1994年電話回線を用いてハワイの高校とのテレビ会議を始めて今年で18年。その間インターネットの普及ともなあって、台湾、スウェーデン、トルコ、イラン、マレーシア、カナダ、米国と「防災」や「都市芸術」など、テーマを決めてテレビ会議という形で、発表や意見交換を行ってきました。また、「18歳成人制を導入すべきか」「死刑制度の是非」など国ごとに意見が異なるようなテーマを取り上げて、インターネットの専用掲示板に書き込むなどの方法で、他国の高校生とディベートを行う中で、コミュニケーション能力や、論理的思考力を伸ばしてきました。

自国の歴史や文化を掘り下げて学びながら、他国の文化を理解し、自分の言葉で意見を伝えられる技能と精神を培っています。身近な話題から時事問題までたくさんの情報に触れ、さらに理解を深めています。「国際人」を育てるために、これからもたくさんの機会を作っていきます。

亜細亜大学スピーチコンテスト

亜細亜大学スピーチコンテストの本選が8月6日(月)に行われました。宇留野はるかさん(1年生)が「The Power of Words」で優秀賞、吉田ひかりさん(2年生)が「Tadama」で特別賞を受賞しました。



第61回チャールズ杯西日本予選

第61回チャールズ杯西日本予選が9月29日(土)に関西学院大学において開催されました。1年生の寺田友菜さんが4位に入賞しました。本戦が11月10日(土)に関西学院大学で行われます。東日本予選、西日本予選で勝ち上がった出場者が集まります。寺田さんも本選に出場します。



平成24年12月7日 神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.18 2012

高大連携授業行われる

11月20日(火)の6・7時間目に、大学の先生方をお招きしての特別講義、「高大連携授業」が行われました。今年は6大学より6名の先生方をお招きし、ソーシャルワーカーの仕事、国際関係論、文化情報学、英語辞書の使い方、無限についての数学などのテーマで講義をしていただきました。講義は、6時間目に2年生、7時間目に1年生がそれぞれ希望する講義に出席し、50分の時間の中で各先生方に専門分野について具体的に説明をしていただきました。



高大連携授業は、葦台高校ではこれまで10年以上、毎年秋に行われていますが、大学の専門分野について具体的に知ることができる機会として役立っています。

【生徒の感想より】

- ・ソーシャルワーカーと聞いても、今まであまりパッと浮かぶものはなかったけど、先生のお話を聞いて社会福祉士の様々な仕事や活動を知ることができました。社会福祉はすべての人々が社会の中であたりまえのしあわせを得られるように作られたもので、しあわせを求め人々を支えるために色々な援助をしていて、素晴らしいなと思いました。(1年生)
- ・私も国の指導者とかが欲しくて、自分勝手に思いやったりする気持ちがないから、国と国との間で争いが起こったり、戦争が起こったりするんだ!と思っていたけど、それは完全ではないんだと発見することができました。「四人のジレンマ」というゲームで実際すごく悩んだし、でも相手を信用しきれないこの国際社会の難しさというのがわかりやすく理解できました。すごくおもしろかったです!!(2年生)



平成 24 年 12 月 10 日
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.19 2012

少林寺拳法部 近畿大会出場



少林寺拳法部は、11月4日に行われた兵庫県高等学校少林寺拳法新人大会の結果、近畿大会出場が決まりました。近畿大会は12月23日と24日に「奈良県立橿原公苑」で行われます。近畿大会での上位入賞、そして年明けの3月に香川県で行われる全国選抜大会出場を目標に日々練習に励んでいます。

規定組演武の部 西村 美波 (1-1)
福成 優香 (1-2)
自由組演武の部 小野 竜輝 (2-5)
藤原 大成 (1-5)

女子硬式テニス部 2年連続 近畿公立テニス大会出場決定!

11月23日にしあわせの村で行われた兵庫県公立高校テニス大会で葦台高校は第3位となり、2013年1月5日と6日に大阪で行われる近畿公立テニス大会に兵庫県第3代表として出場することが決まりました。この大会は、県内各地区代表の8校で行われる団体戦トーナメントで、シングルス3人、ダブルス2ペアの計7名の勝負で勝ちが決まります。葦台高校は、初戦は完勝しましたが準決勝では悔しくも敗退。しかし三位決定戦では対戦相手の2校を下し、2年連続で近畿公立大会の出場を決めました。当日の試合はコートに立った選手や応援した部員だけでなく、多くのOG・保護者の方の応援も大きな力となり、朝一番から日没までチームが一丸となって、全く休まなく戦い続けました。また、個人戦でも本校の松浦幸子さんが2月3日に大阪で行われる近畿公立大会に出場することが既に決定しています。



日没まで戦い抜いた「葦台女子硬式テニス部」2012. 11. 23

平成 24 年 12 月 13 日
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.21 2012

KOBE 中高生 Sweets コンテスト3位



11月11日(日)にユースプラザ KOBE・EAST (御影クラスセ4F)にて行われた「第1回 KOBE 中高生 Sweets コンテスト」で、葦台高校2年生チーム(寺浦さん、

長井さん、川除さん)の作品が3位に入賞しました。

このコンテストはテーマに合わせた創作スイーツのデコレーションを行うもので、今年のテーマは「あなたのまち神戸」。作品のタイトルや作品への思い、簡単なレシピと作品の写真による書類選考を通過した10チームが当日会場に集まり、その場で作品を制作しました。

葦台高校生のチーム名は「Happiness Factory」、作品タイトルは「Dream Journey」。港町神戸の港から動物たちが夢の国へと船出するイメージを、マジパンの人形や金平糖などで表現しました。



第4回 IIBC TOEIC エッセイコンテスト特別賞受賞



本校国際科1年生の福本タイラー徹郎君が、TOEIC エッセイコンテストで特別賞を受賞しました。同エッセイコンテストは、コミュニケーション英語能力テストTOEICを実施・運営しているIIBCが主催する英語エッセイコンテストで、今年のテーマは「私にとっての身近な異文化」。福本君は「A Familiar Difference — My Exceptional Experience with Culture」というタイトルで、日本とアメリカの両方の国で異なる存在として見られ関心を持たれたという自分自身の体験をもとに、異なるものに関心を持ち異文化を理解する努力が人が世界市民へと成長させることを述べ、109名の応募作品の中から5作品選ばれた特別賞を受賞しました。

第4回 高校生英語エッセーコンテスト最優秀賞受賞

関西学院大学、読売新聞、デیلیー・ヨミウリの3団体が主催の「第4回高校生英語エッセーコンテスト」に本校の2年生の英系クラス生徒を中心に応募しました。エッセーのメインテーマは「考えてみよう。世界のこと、日本のこと」。夏休みの課題として300~400wordsで自分の考えや思いを表現しました。応募作品の中から、2年生の水谷麻里さんのエッセーが見事に最優秀賞に選ばれました。



平成 24 年 12 月 27 日
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.25 2012

国際理解教育 「ルワンダ内戦～平和について考える～」



12月18日(火)に1年生全員を対象とした国際理解教育が行われました。テーマは「ルワンダ内戦」。ルワンダの歴史・現状について体験談を聞くことで平和について考える学習です。

午前中は本校英語非常勤講師の中村弘子先生による講演「ユニセフスタディツアーに参加して」。中村先生は日本ユニセフ協会に参加しておられ、その活動の一環としてルワンダの教育現場を訪問した時のことなどを、現地で撮影した学校や子供たちの写真を交えて話してくださいました。お話を、ルワンダの教育環境や識字率の低さ、日本独自のシステムである母子手帳のすばらしさ、昨日まで隣人で助け合っていた人同士が互いに殺し合う関係になってしまうという内戦の悲惨な状況などについて、具体的に話してくださいました。



午後は、ルワンダから来日しているカンベンガ・マリールーズさんによる講演、「ルワンダ内戦を経験して・平和のありがたさ」。マリールーズさんは、ルワンダの専門学校で教師をされていたが、JICAのプロジェクトで福島で研修を受けたときに、日本人誰もが読み書きできるということに感動を受けて以来、祖国のために活動をしています。内戦時は難民キャンプでの生活を体験。日本人医師の通訳をしたことがきっかけで再来日されて、現在はルワンダのすべての子どもたちが教育を受けられるように学校を建てる活動をされています。マリールーズさんは講演の中で、外国語を勉強することの大切さ、誰かのために努力を惜みず頑張ることの素晴らしいことについて自分自身の生活体験とともに語り、家族や友達、自分を支えてくれている周囲の人々への感謝の気持ちを忘れてくださいと話されました。

～生徒の感想より～
・講演の中で、ルワンダの子供たちが「大きくなったら何になりたい?」という質問に対して、「大きくなるまで生きていますか?」と返事が来るということに一番驚きました。日本では考えられない会話であり、本当に悲しかったです。ルワンダでの生活がいかに不安定なものかを感じさせられました。ビデオの中で、夢を持って叶うと信じて生きている子供たちの笑顔が印象に残っています。



平成 24 年 12 月 27 日
神戸市立葦台高等学校 広報企画部

FUKIAI NEWS No.28 2012

少林寺拳法部 全国大会出場

12月23日(日)、24日(月)に奈良県立橿原公苑第1体育館において、「第30回近畿高等学校少林寺拳法大会」が行われ、規定組演武で西村美波さん(1-1)と福成優香さん(1-2)が6位に入賞し、全国大会に出場することが決まりました。

また自由組演武では、小野竜輝くん(2-5)と藤原大成くん(1-5)が決勝に進出するなど精一杯試合に臨みました。



全国大会は平成25年3月23日(土)、24日(日)に香川県の香川県多度津町総合スポーツセンターで開催されます。全国大会に向けて、練習に励んでいます。

フェニックス賞

このメダルは本校菊川晋久元教諭の作である



メダルは金賞、銀賞及び銅賞

母校では、学校生活や地域社会における諸活動に、特に積極的、継続的に取り組んだ生徒を表彰するためにフェニックス賞を設けています。下記の部門があります。

- 3か年皆勤の部(金賞)
- 2か年皆勤の部(銀賞)
- 1か年皆勤の部(銅賞)
- 奉仕活動の部
- 研修の部
- 努力の部
- 部活動の部
- 生徒会活動の部
- 善行の部
- HR活動の部
- 国際交流の部

平成24年度卒業生受賞者数 160名

3か年皆勤の部	57名	部活動の部	27名
2か年皆勤の部	26名	生徒会活動の部	6名
1か年皆勤の部	17名	努力の部	26名
		善行の部	1名

「フェニックス賞」の由来

フェニックスは本校玄関前にそびえる大樹であり、また、灰の中から何度も生まれ変わる霊鳥の名前でもあります。大樹のようにたくましく、不死鳥のようにいきごと、本校生徒が育つようにという願いを込めて名付けられました。

『神戸市立葺合高等学校校歌』

作詞 荒木良雄
作曲 永井幸次

一、朝雲巻く峰を背にて
学校建てり山の気の
清しき処集ひたる
若人われらひたぶるに
努め励みて知識磨かむ

二、眸放てば遠く茅渟の海
展けて青しこの船路
世界に通ふ大いなる
未来の希望わが胸に
ひびく明るさ讃へ拓かむ

三、泉清らかに澄みて筒井台
揺がず高し敬愛の
ゆかしき心澆測と
若さにあふれ新たなる
真理求めて已まず努めむ

『神戸市立第一中学校校歌』

作詞 宮地雄吉
作曲 弘田龍太郎

一、筒台の邊に旭さしそひ
匂出でし若木の櫻
繚乱の春を競ひて耀ふよ
おし照る日影

二、摩耶の嶺に高し青雲
我が胸の理想にも似る
見はるかす茅渟の大海遼遠の
ゆくてに通ふ

三、日の本の文化の泉
筒台の園にこそ湧け
流れては末も廣らに天の下
うるほしゆかん

『生徒歌』

作詞 原清水
作曲 啓彰

一、春爛漫と咲き匂ふ
筒井が丘に新しく
友を迎へて今おどる
若さの集ひ葺合高

二、みどりに落つる布引の
岩もとどろに火花なす
力たくまし飛びしづく
わが青春の意気ぞこれ

三、月影清く天高き
秋筒陵の夜はふけて
空山落葉声もなく
思索の友のたたずめる

四、六甲摩耶に雪白く
荒涼万木枯れぬとも
やがて咲きなん若き芽は
下にほのかに萌ゆるなり

平成24年度

部活動の主な成績

【運動部】

◆陸上競技部

- 近畿ユース陸上競技大会 男子400M 優勝
- 兵庫選手権大会 女子4×100MR 6位

◆少林寺拳法部

- 県総体 男子自由単独演武 2位
(全国大会出場)
- 県新人大会 男子規定組演武 6位
女子規定組演武 3位
- 近畿大会 女子規定組演武 6位
(全国大会出場)

◆女子硬式テニス部

- 神戸市秋季リーグ戦 1部優勝
- 兵庫県新人大会 県ベスト16
- 近畿公立テニス大会 2年連続出場

◆男子硬式テニス部

- 神戸市リーグ戦 6部優勝、5部優勝

◆水泳部

- 県総体 400MフリーR 7位
100Mフリー 6位
50Mフリー 7位

◆男子バスケットボール部

- 県総体 ベスト16
- 県新人戦 ベスト16

◆なぎなた部

- 県新人大会 演技の部 ベスト16
団体の部 4位

◆サッカー部

- 県総体 5位

【文化部】

◆吹奏楽部

- 兵庫県吹奏楽部コンクール 銀賞
- 兵庫県アンサンブルコンテスト 打楽器四重奏 銀賞

◆放送委員会

- NHK杯 兵庫県大会 奨励賞

◆美術部

- 兵庫県小・中・高校絵画展 神戸市教育委員会賞

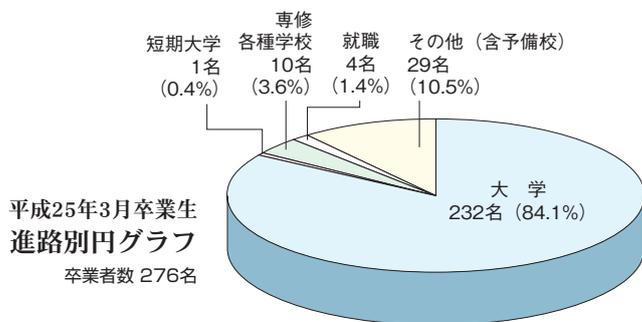
◆ESS

- スピーチコンテスト近畿大会 2位
- 兵庫県ディベートコンテスト 優勝

平成24年度

卒業生進路状況

※ 数字はすべて延数で、既卒者も含む
 ※ 個人情報保護の観点から連絡のない大学・予備校等もあるため、実際はもう少し多いと思われます。



国公立大学

大阪大 5	神戸大 3	筑波大 2	東京外国語大 1
富山大 1	金沢大 1	奈良女子大 1	奈良教育大 2
大阪教育大 1	和歌山大 1	愛媛大 1	鳥取大 1
山口大 1	九州工業大 1	鹿児島大 1	国際教養大 1
首都大学東京 1	滋賀県立大 1	京都市立芸術大 2	大阪府立大 1
大阪市立大 1	奈良県立大 1	神戸市外国語大 10	神戸市看護大 1
兵庫県立大 3	鳥取環境大 1	下関市立大 1	

27大学47名

私立大学

早稲田大 5	上智大 3	立教大 1	明治大 5
国際基督教大 1	同志社大 65	同志社女子大 7	立命館大 34
京都産業大 14	龍谷大 5	京都女子大 3	京都外国語大 8
関西大 90	近畿大 49	関西外国語大 9	畿央大 2
関西学院大 108	甲南大 72	甲南女子大 19	武庫川女子大 14
神戸女学院大 13	神戸学院大 10	神戸親和女子大 8	神戸薬科大 2

など55大学612名

短期大学(短期大学部を含む)

関西外国語大短大部 1	創価女子短大 1	武庫川女子大短大部 5	など4大学8名
-------------	----------	-------------	---------

専修各種学校

関西労災看護専門学校 4	近畿大学附属看護専門学校 1	宝塚市立看護専門学校 2	など16校21名
--------------	----------------	--------------	----------

公務員

3名

Profile Interview

葺合高校OB・OGで各界、各層で活躍しておられる方々にお聞きしました。

この人に聞く

- ① 氏名
- ② 職業
- ③ 卒業年度
- ④ その他
- ⑤ 現在の活動状況
- ⑥ この道に入るきっかけ
- ⑦ この道に入って一番うれしかったこと苦しかったこと
- ⑧ 将来の目標
- ⑨ 葺高時代の一番の思い出
- ⑩ 筒台会会員に一言



- ① 太田 収 (おおた おさむ)
- ② 株式会社ジェイク・サポート&サプライ (兵庫県神戸市) 代表取締役 農業生産法人 株式会社生駒 (宮崎県小林市) 代表取締役
- ③ 昭和60年卒・第37回生

④ 葺高を卒業し、しばらく放蕩生活。某住宅メーカー系の不動産会社で資産運用や相続税対策、アパート・マンション経営の提案など、管理管財の仕事をしていました。震災後に退職し独立。知人の協力を得て、ロシアや中国との貿易事業を開始。32歳の時に中国の船会社と日本人を設立し、中国産青果物の輸入事業を開始しましたが信頼していた共同経営者の中国人が急死し事業の継続を断念。その後、青果店の経営や給食用食材の納入事業を営んでいました。

⑤ 平成22年6月、神戸市に(株)ジェイク・サポート&サプライを設立し、安全・安心な食材(主に生鮮野菜)を安定供給しています。相場で乱高下する青果品の価格に消費者及び生産者が振り回されないことがないように、今までの食品の流通を見直し、生産から消費までを一本の線で結ぶことに取り組んでいます。

まずは料理に欠かせない青ネギに着手し、こだわりを持つ人気ラーメン店の「風味が良い国産品、肉薄で甘味のあるネギ」のニーズに合わせた品種を決め、全国各地の農家に生産を委託。出荷時の荷姿なども揃え、安定した供給の実績を重ね、今では大手うどんチェーン店に供給するなど(株)ジェイク・サポート&サプライへの信頼感も大きくすることができました。

ネギを入り口に「無農薬野菜で食感の柔らかいキャベツ、甘みたっぷりの白菜がほしい」などの要望が相次ぐ中、無農薬野菜生産指導の第一人者である小倉幸生(健康家族の伝統にんにく卵黄で使用している無農薬にんにくの栽培指導者)と巡り合い意気投合。平成24年3月に、農業に熱心な宮崎県小林市の生産農家約50軒と連携、20ヘクタールの耕作地を確保し小倉幸生らと農業生産法人(株)生駒を設立しました。

これで安定供給はもちろんのこと、さまざまな農作物を混載できるた



め物流コストを抑えることが可能であり、顧客のニーズに応じて品種選定し、種まきから栽培～収穫～流通を自ら可視化できる体制ができたことを確信しています。目指すのは加工食品並みの“定価”“定質”“定量”“定時”を生鮮野菜で実践することです。

現在はラーメンレストランどうとんぼり神座の全店舗の白菜、青ネギ、ニラ、もやしなどのほか、亀王、むさし、古澤、第一旭で提供されている野菜を任されています。今春からはファミリーレストランで使用するカット野菜及び産直野菜の供給と、産直品の販売に力を注いでいる量販店チェーンへの供給も開始します。2社の野菜販路が広がる中、さらに熊本・高知・静岡と専属栽培産地を広げ、取扱品目も増やしています。農林水産省が提唱している農業の六次産業化による地域活性が叫ばれている中、我々もいち早くその取り組みを始めました。生産は農業生産法人(株)生駒が行い、集出荷作業やカット野菜工場の運営は神戸で最大規模の社会福祉法人陽気会とタッグを組み、神戸では量販店・給食事業者向け商品の小分け作業やピッキングと納品、専属のカットネギ工場の運営を委託し、宮崎では新たに障害者の就労支援施設を設置して生産物の集出荷作業を行い、販売は(株)ジェイク・サポート&サプライが担うという“農・工・商の連携”をとるという仕組みがスタートできました。農業の活性化を図り、高齢者や障害者の雇用の創出、農業の担い手の育成で社会貢献することが使命であると覚悟を決め、全国各地を巡り頑張っています。障害者の就労支援事業に関しては、神戸と宮崎で計50名程度の支援実績を作ることができ、年内には100名以上の就労を支援できるよう具体的に計画を進めています。また、(株)生駒では堆肥舎の建設中で、集出荷時に発生する食品残渣を堆肥にすることで産業廃棄物を出さない還元型農業の実践に取り組んでいます。

また、尼崎信用金庫が主催している“第2回あましんグリーンプレミアム(地域貢献活動)”に「業務用無農薬野菜から生まれる野菜パウダー」の企画を提案したところ、環境アイデア部門賞を受賞しました。私のアイデアが客観的に評価されたことを受け、具体的な取り組みへと行動を開始しようと考えています。



- ⑥ 不動産会社に就職し、震災後に退職。その後、貿易の仕事に携わり中国の船会社と共同で中国産青果の輸入事業を始め、全国の卸売市場や委託給食会社との取引を始めたことがきっかけです。
- ⑦ 就労支援施設を利用する障害者の方々が我々と共に働くことで日に日に笑顔になり、いきいきと欠勤やドロップアウトもなく働きに来てくれることを楽しみにしてくれていること。知的、精神、身体のいずれかに何らかのハンデを背負っていても自分が発揮できる能力以上を発揮しようとして一生懸命に取り組んでいる姿には、見習おうと思うことや学ぶことがたくさんあります。
- ⑧ 創業して僅か3年にもかかわらず、神戸と宮崎で私のビジネスに関わってくれている仲間が300名を超えました。彼らと仕事を通じて喜びと楽しさを共有し、いろんな意味での豊かさを分かち合えることを目標にしています。安全で安心なおいしい食材を栽培・肥育できる長閑な田園地帯で趣のある古民家を手に入れて、仲間たちといつでも集える遊び場をつくりたいです。
- ⑨ 3年生に進級する直前、土曜日1時限目にあった化学の授業の出席日数が1日足りず、「先生に「進級を認めない」と宣告されました。先生と出席簿をにらめっこしながら「なんとかしてください! 勘弁してください!」と頼み込みましたが、許されるわけもなく…。目の前の出席簿をよく見ると、自分が授業をさぼった日と先生が何かの用事で授業をしなかった日が重なっていたことが発覚。「先生もこの日はお休みでしたね?」と言ったら「そうやな」と、あっさり進級を認められたこと。
- ⑩ インターネットの普及で、SNSなどを通じて長らく音信不通だった同級生との再会も、この数年で多数ありました。4年前から毎年夏にはたくさんの同級生が集まって同窓会を開催していますし、今でも毎年何人かの同級生とは再開を果たし、少人数での飲み会も開催しています。直接関わりのあった先輩方や後輩とは卒業以来のご無沙汰をしている方がほとんどだと思いますが、これを機に私に覚えのある方は是非お声掛けください。



平成25年度 筒台会役員(案)

顧問
(常任)

9代校長 神田民枝
 10代校長 竹内静夫
 12代校長 絹笠清二
 13代校長 大月民義
 15代校長 小嶋良平
 16代校長 山崎秀昭
 17代校長 油谷健夫
 18代校長 二宮尊志
 19代校長 田中一好
 20代校長 田阪義英

相談役
(常任)

中3 名村嘉之
 中5 三木谷良一
 高8 北風雅頌
 高8 山西乙平
 高11 松宮功
 高16 志水利達

会 長	高18 古川 浩
副 会 長	高17 渡部 隆
	高21 達脇 寛
	高23 大庭 義弘 (HP運営)
東京支部長	高24 大政 直人
役 員	高16 村井 治美 (HP運営)
	高19 木村 晃子
	高21 寺内 修
	高21 織戸 新
	高22 石谷 健次
	高22 坂本 裕子
	高24 黒田 勇 (HP運営)
	高24 進木 健三
会 計	高33 遅 秀蘭
	高27 坂口 秀昭
	高33 増田 精三
会 計 監 査	高38 谷口 昌樹
	高33 村松 公人
	高27 北風 公基
事 務 局	高39 兼子 美佐
	高40 村上 ひろ子
	高41 辻本 正子
	高41 辻本 正子

神戸市立葺合高等学校 筒台会

平成25年度 定時総会

- 日時 平成25年 6月22日(土)
 受付 4:30PM~
 定時総会 5:00PM~
 懇親会 6:00PM~
- 場所 神戸ポートピアホテル
 本館 2Fのじぎくの間

◆ 議 事 次 第 ◆

1. はじめのことば
2. 会長の挨拶
3. 来賓の挨拶
4. 議長選出
5. 第1号議案 平成24年度会務報告
6. 第2号議案 平成24年度会計報告
7. 第3号議案 平成24年度会計監査報告
8. 第1・2・3号議案質疑応答及び承認を求める件
9. 役員改選の承認
10. 第4号議案 平成25年度事業計画案
11. 第5号議案 平成25年度予算案
12. 第4・5号議案質疑応答及び承認を求める件
13. 筒台会東京支部活動現状報告
14. おわりのことば

◆ 懇 親 会 ◆

1. はじめのことば
2. 新会長のあいさつ
3. 来賓の挨拶
4. 助成金の贈呈
5. 乾杯の音頭
6. 会食および歓談
 ご出席の恩師並びに同窓生の方々からのお言葉をいただく
7. 万歳三唱
8. おわりのことば

◆平成25年事業計画(案)◆

1. 運営基盤の確立
 (資金面)
 - ・筒台会運営協力金(会報協力金含む)のお願い
 - ・HPバナー広告のお願い
 - ・会報の広告協賛のお願い
 (施策面)
 - ・活動しやすい組織の確立(委員会組織で委員長に権限移譲)
 - ・役員会を活性化し、決定事項を実行する
 - ・情報の共有化・見える化
2. 母校の新校舎建設に対する協力体制を作る
3. 母校へのバックアップ体制の支援
 - ・フェニックス賞の贈呈支援
 - ・部活動への支援

◎平成24年度 決算報告書◎

◇経常費

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	11,661,606円	総会費	1,525,492円
会費	2,993,700円	会議費	231,067円
総会参加費	558,000円	事業費	2,830,248円
会報協力金	2,005,030円	(内訳)	
(内訳)		事業費	142,030円
会報収入	1,405,030円	国際協力金	200,000円
会報広告料	600,000円	部活動支援金	300,000円
運営協力金	2,052,710円	卒業記念品	588,218円
雑収入	134,391円	教育推進費	700,000円
(内訳)		建替部活動経費	900,000円
バナー広告料	96,000円	通信費	1,201,066円
寄付金	27,647円	印刷費	1,087,590円
受取利息	894円	慶弔費	111,000円
その他	9,850円	交通費	123,315円
		東京支部助成金	300,000円
		事務費	2,172円
		小計	7,411,950円
合計	19,405,437円	次年度繰越金	11,993,487円
		合計	19,405,437円

次年度繰越金11,993,487円の状況

経常通帳	145,047円
定期預金	2,498,526円
郵便貯金	1,951,168円
郵便振替	6,585,380円
現金	813,366円
合計	11,993,487円

◇賛助会費

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	5,959,231円	次年度繰越金	5,961,020円
受取利息	1,789円		
合計	5,961,020円	合計	5,961,020円

次年度繰越金5,961,020円の状況

普通預金	10,099円
定期預金	5,950,921円
合計	5,961,020円

◎平成25年度 予算(案)◎

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	11,993,487円	総会費	1,800,000円
会費	3,000,000円	会議費	200,000円
総会参加費	800,000円	事業費	3,000,000円
会報協力金	2,500,000円	(内訳)	
(内訳)		事業費	300,000円
会報収入	1,500,000円	国際協力金	200,000円
会報広告料	1,000,000円	部活動支援金	300,000円
運営協力金	1,500,000円	卒業記念品	500,000円
雑収入	128,900円	フェニックス勸励金	200,000円
(内訳)		教育推進費	300,000円
バナー広告料	108,000円	建替部活動経費	1,200,000円
寄付金	20,000円	通信費	1,200,000円
受取利息	900円	印刷費	1,200,000円
		慶弔費	100,000円
		交通費	200,000円
		東京支部助成金	300,000円
		事務費	100,000円
		小計	8,100,000円
合計	19,922,387円	次年度繰越金	11,822,387円
		合計	19,922,387円

◎会計監査報告◎

上記の決算報告は会計監査の結果正確であることを認めます。

平成25年 4月10日

会計監査 小林 寛子
会計監査 村松 公人

❖ 平成24年度会務報告

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

開催日時	内容	出席者数	出席者数
1 平成24年4月9日(月)	「入学式」	役員3名出席 母校	
2 平成24年4月19日(木)	「役員・幹事総会」前年度決算・監査報告、本年度事業計画、予算案、総会・懇親会開催他	33名出席 神戸国際会館	
3 平成24年4月23日(月)	「ホームカミングデー」開催打合せ	役員2名出席 母校	
4 平成24年5月7日(月)	「総会会場現地打合せ、会報45号校正作業」	12名出席 ポートピアホテル	
5 平成24年5月17日(木)	「役員会」会報45号発行、ホームカミングデー、総会・懇親会他	14名出席 神戸市勤労会館	
6 平成24年6月13日(水)	「役員会」東京支部総会の報告、ホームカミングデー、総会・懇親会他	17名出席 神戸市勤労会館	
7 平成24年6月16日(土)	「ホームカミングデー」神田先生、竹内先生による【なつかしの授業】	役員・スタッフ 9名動員 参加者約80名 母校	
8 平成24年6月23日(土)	「総会・懇親会」	172名参加 ポートピアホテル	
9 平成24年7月12日(木)	「総会・懇親会の総括及び打上げ」	12名出席 北野ガーデン	
10 平成24年9月13日(木)	「役員会」学校から建設状況の報告、総会・懇親会の報告、筒台会名簿発刊(2014発刊)の件	12名出席 神戸市勤労会館	
11 平成24年9月17日(祝)	「体育大会」	役員6名出席 王子スタジアム	
12 平成24年10月18日(木)	「役員会」筒台会名簿、広告料・バナー広告料の請求他	9名出席 神戸市勤労会館	
13 平成24年11月7日(水)	「総務部会」筒台会名簿管理、会計担当のサポートについて	5名出席 神戸東急イン	
14 平成24年11月22日(木)	「役員会」課題整理、筒台会名簿、会計担当のサポート他	10名出席 神戸市勤労会館	
15 平成24年12月13日(木)	「役員会兼忘年会」筒台会名簿管理、次年度総会・懇親会会場他	8名出席 北野ガーデン	
16 平成25年1月17日(木)	「役員会」名簿発刊契約、名簿管理、会報46号の寄稿他	11名出席 神戸東急イン	
17 平成25年2月21日(木)	「役員会」学校の建設状況の報告、次年度役員・幹事総会日程、総会・懇親会日程、会報46号発行タイムスケジュール、ホームカミングデー他	17名出席 神戸市勤労会館	
18 平成25年2月27日(水)	「筒台会入会式」	役員5名出席 母校	
19 平成25年2月28日(木)	「卒業式」	役員5名出席 母校	
20 平成25年3月21日(木)	「役員会」ホームカミングデー、役員・幹事総会の件、筒台会名簿発刊の件他	16名出席 神戸市勤労会館	

平成25年度
KOBE

筒台会総会・懇親会のご案内



日 時／平成25年 6月22日(土)
場 所／神戸ポートピアホテル
神戸市中央区港島中町 6丁目10番地 1
TEL(078)302-1111(代表)
※無料送迎シャトルバス
ミント神戸1階バスのりば⑧番
(毎時：0,12,20,32,40,52分発)

内容

定時総会 5：00PM～(本館 2Fのじぎくの間)
懇親会 6：00PM～(本館B 1F偕楽の間)

会費

神戸市立第一中学校卒業生…………… 無 料
平成20年度以前の卒業生…………… ￥7,000
平成21～23年度卒業生…………… ￥3,000
平成24年度卒業生(平成25年 3月卒業生)…… 無 料

母校の発展・育成の為、筒台会総会にご学友お誘いあわせの上、ご出席賜りますようお願い申し上げます。

筒台会会長 志 水 利 達



多数の方々のご参加をお待ちします。

筒台会東京支部総会・懇親会のご案内

平成25年度
TOKYO

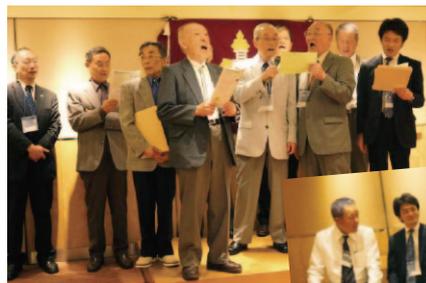
日 時／平成25年 5月25日(土)
場 所／新宿小田急ホテル
センチュリーサザンタワー 21階パークルーム
(エレベーターを20階にて乗り換え)
TEL(03)5354-2155(宴会予約直通)

内容

受付開始 4：30PM～
総会・懇親会 5：00PM～7：30PM

会費

一般男性…………… ￥7,000
一般女性…………… ￥6,000
学生 2年生以上…………… ￥3,000
学生 1年生…………… 無 料



皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
神戸市立第一中学、葺合高校の卒業生で東京近隣に在住の方々にお集まり戴き、上記の通り総会並びに懇親会を開催いたします。是非ご出席を賜り旧交をあたためていただきたく存じます。

筒台会東京支部 支部長 大 政 直 人